歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-A-13	更新日	2025/1/31
サイト名	急峻な石段と巨岩をくぐる古からの御拝殿～韓竈（からかま）神社		

基本情報	区分	□有形　□無形　☑その他
	所在地	出雲市唐川町
	指定別	
	種別	
	指定／登録年月日	
	管理団体／モニタリング	
	周辺施設／アクセス	□トイレ　□売店　□飲食店　☑駐車場（10台） 山陰道　斐川ICから車で鰐淵寺方面へ約20km、約50分 一畑電車 雲州平田駅から車で約15km、約40分
	留意点	令和4年度にジオサイト「韓竈神社周辺の黒鉱鉱床」は「唐川地域の黒鉱鉱床」に変更し、韓竈神社自体は歴史・文化サイトにすることにした。

サイトの解説	歴史・文化	韓竈神社は、『出雲国風土記』には「韓鉏社（からかまのやしろ）」、『延喜式神名帳』には「韓竈神社」と記載されている。江戸時代には、「智那尾権現（ちおごんげん）」と呼ばれていた。 「岩船」伝説でも知られており、この大岩は、新羅から植林法や鉄器文化を伝えられるときに、祭神である素盞嗚命（スサノオノミコト）が乗られた船であるといわれている。 また、鰐淵寺を開かれた智春上人（ちしゅんしょうにん）が信濃の国から来られたとき、三人の老翁が船で出迎え、鰐淵寺へと案内された。その後、老翁は別所・唐川・旅伏の三所に飛び去り、唐川の智那尾権現は岩船となり、別所の白瀧権現は帆柱石となり、旅伏山の旅伏権現は帆形の石となったと伝えられている。 周辺では、海底火山の活動によって地下に銅・鉛・亜鉛・金・銀・石膏などの鉱石が作られた。
	地形・地質、生物・生態等	この付近の岩石は、海底火山によって作られた緑色凝灰岩である。火山噴火が深い海の中であったため、泥岩層（黒色頁岩）と一緒になっている。このような環境でつくられた火山噴出物と黒色頁岩層の組み合わせは、この地質時代の特徴で黒鉱鉱床（硫化物鉱床）を形成し、銅、鉛、銀、金などの金属資源や石膏を産出する。唐川の周囲には金掘り地区の地名や自然銅、野タタラ跡があるほか、いまでは夢の跡となった唐川鉱山をはじめ多くの鉱山が点在していた。パワースポットである韓竈神社の祭神は、素盞嗚命であることから、この地が新羅から伝わったとされる製鉄技術との関連性を想起させる。そのため、風土記時代から銅鉱床が採掘されていたとしても不思議ではないが、明確な証拠はないようだ。

写真・図等		
参考文献		